

日本農業気象学会 2010 年度第 2 回理事会議事録

日 時：2010 年 6 月 9 日（水）13:00～17:30

場 所：東京大学農学部 7 号館 A 棟 7 階 717 号室（東京都文京区弥生 1-1-1）

出席者：岡田、青木、大政、後藤、皆巳、北野、松岡、五十嵐、小沢、朝倉、平野、菅野、
大野、吉本

欠席者：蔵田、小林、田中、町村、菅谷、黒瀬、星、皆川

[議事録確認]

1. 2010 年度第 1 回理事会議事録報告（資料 1）

メール会議にて確認済みにて、承認された。

[報告・連絡事項]

1. 2009 年度評議員会議事要旨報告（資料 2）

2. 2010 年度総会議事要旨報告（資料 3）

報告の通り承認された。

3. 編集委員会報告（資料 4）

和文論文を電子媒体化された「生物と気象」に掲載し、「農業気象」を「Journal of Agricultural Meteorology」として英文誌化するための作業が、北野編集委員長、松岡編集理事より報告された。投稿規定・編集委員会規定・原稿作成要領の改正案や、投稿受付方法の変更、移行の作業スケジュール等が報告された。「Journal of Agricultural Meteorology」の巻号は「農業気象」を引き継ぎ、67 巻 1 号（2011 年 3 月に発行予定）を目指し編集作業を進めていくことが了承された。和文論文の投稿料、賛助会員等の広告掲載、養賢堂との契約変更や J-Stage への説明・協議については、変更に伴う具体的な予算見積もりを行った上で、引き続き編集委員会で検討することとなった。掲載が「生物と気象」に変更となる和文論文の英文アブストラクトや英文キャプションについても、引き続き検討することとした。

4. 学会ホームページについて

皆巳理事より、若手会ホームページの創設とその学会ホームページとのリンクについての作業の経過が報告された。サーバの変更について他学会ホームページなどの事例で情報収集中である。「農業気象」の英文誌化に伴い賛助会員等の広告料がなくなるため、学会ホームページでの賛助会員等の広告掲載やリンクについても検討中である。

5. 「農業気象」バックナンバーのウェブ公開（資料 5）

J-Stage による Journal@rchive にて公開されたバックナンバーが検索エンジンに掛からない原因は、J-Stage の検索エンジンへ等の申請手続きが途中であったため。時間的にまだ少し掛かるが、引き続き申請手続きを進めるよう依頼。J-Stage と Agropedia（農林水産研究情報総合センターによる農林水産分野の文献の全文情報リンクサービス）の論文ダウンロードファイルの比較調査結果についても報告された。

6. 研究部会内規の公開（資料 6）

研究部会内規が会員の目に触れるようにするため、今年の名簿発行（会則も印刷）に合わせ、研究部会運営内規文書を整備した。内規から規程とし、「研究部会」を会則に明記する必要があるため、次回総会で諮れるよう準備を進めることとなった。

7. 2011 年度大会の進捗状況（資料 7）

北野理事より、日本農業気象学会 2011 年全国大会および農業気象国際シンポジウム（ISAM2011）の開催告知案（本部ホームページおよび「農業気象」への掲載用）の報告があった。ISAM2011 の投稿論文についてもこれまで同様の方針で編集する。

スケジュールについて要望が出され、総会の時間に余裕がとれるよう総会の開始時刻を 30 分早めるなど前後の調整を行うこと、役員改選の年であるため新・旧体制での両理事会開催に備えて 3 月 16 日の午前と 3 月 18 日の昼休みを確保しておくこと、などを申し合わせた。なお、支部長会議の開催については、次回理事会で検討することになった。

8. その他

1) 協賛・後援等（資料 8）

資料により報告された。

2) 日本地球惑星科学連合（JpGU）関連

・大気海洋・環境科学セクション名変更について（資料 8）

セクションボードメンバーの呼びかけに対し、学会として賛同する旨を庶務より伝えた。セクションボード会議において要望書が提出され、名称変更について来年度 JpGU 社員総会にかける可能性を想定し作業を進めるとの経過報告があった。また、対応窓口の明確化に関するセクションボードメンバーからの提案に対し、当面庶務理事を窓口とすることとした。

・第 4 回欧文誌意見交換会について（資料 8）

意見交換会への参加について、理事会メンバーにメールで希望者を募ることとした。

・一般社団法人日本地球惑星科学連合 第 2 回学協会長会議報告（資料 9）

学協会長代理で出席した菅野理事より、JpGU の活動、日本学術会議の近況報告、各学協会の提案等について、資料に基づき報告された。

3) 機関別認証評価に係る専門委員の選考結果（資料 8）

22 年度実施分について選任を見送る旨の通知があったことが報告された。

4) 2012 年全国大会

岡田会長より、2012 年 3 月頃の全国大会について打診した結果、近畿支部の担当で開催されることになったことが報告された。会場は京都大学の予定。

5) その他

・センサーエキスポ開催

青木副会長よりセンサーエキスポジャパン 2010 での日本農業気象学会セミナー開催の案内があった。関連して、広報・企業担当委員会による学会案内のためのパンフレットおよびポスターの改訂と完成を急ぐべきとの意見が出された。

・全国大会参加費の分類について

参加費の分類について問い合わせが多いため、会則の会員分類と対応した分類にしてほしいとの意見が出され、2011 年大会から早速対応することになった。

[審議事項]

1. 温暖化関係の研究活動（資料 20）

大政副会長より、温暖化関係研究活動についてプロジェクトや部会を横断する学会としてのフォーラムの準備会を立ち上げたいとの提案があり、理事会としてこれを了承した。今後、具体的なメンバーの推薦を依頼し、次回全国大会で顔合わせし、打ち合わせを行う。それまでに、大政副会長が組織案を作成予定である。

これに対し、部会横断的だけでなく、支部横断的とすることで地域の適応策研究などにも波及可能であること、フォーラムのホームページ掲載だけでも温暖化研究における学会のアピールになる等の意見が出された。

2. 終身会員制度について（資料 10）

平野理事より終身会員制度案が提示された。会員数減の対策が前提のため、ある年齢以上で会費を無料とすること、資格が得られる条件として、年齢 59 歳（60 歳では定年を過ぎる可能性があるため）、正会員歴 20 年以上、払込金 7 万円とすることが決定された。会則変更を伴うため総会にかける必要があり、次回総会に向けて平野理事が案を作成し理事会で審議することとなった。

3. 学会賞規程の改正（功績賞）（資料 11）

平野理事より、功績賞の定義の変更に関する学会賞規程改正案が提示され承認された。範囲を拡げ、業績評価などでの位置づけを明確化するための変更であり、賛助会員も対象

である。これまで功績賞の受賞者がいないので候補者を推薦してほしいとの要望も出された。

4. 学会賞審査委員の任期（資料 12）

学会賞審査委員は任期 4 年のうち 2 年ごとに半数改選となるが、平成 23 年度は任期が 4 年と 2 年となる者が生じる。このため、任期が 4 年となる者の選考方法について平野理事による提案があったが、改正された「学会賞審査委員会規程」の付則に「委員のうちの互選による 6 名の任期を 2 年とする」とあるため、平野理事の提案は取り下げられた。

5. 倫理事案への対応

2009 年度第 4 回理事会以降、倫理事案が生じた場合の体制について、受付窓口の設置、内規の整備等の必要性が提案されていたが、倫理事案に対応するために常設の倫理委員会等は組織しないこととした。クレームが持ち込まれた各部署（編集委員長や庶務理事など）で対応し、手に負えなくなった時点で理事会に諮り、必要に応じてその事案に特化した常設でない調査委員会等を立ち上げる体制とする。

6. 選挙管理委員会

岡田会長の提案により、従来の選挙管理担当理事と選挙管理委員会の仕事の分担を再考した結果、本理事会を以って、選挙管理担当理事を廃し、新たな選挙管理委員会を組織することとなった。今会員、石神会員から既に委員就任の内諾を得ている。庶務理事（副）が窓口として選挙管理委員を兼任し、理事会での選挙管理委員会報告や選挙管理に関連する会長印の手配等の庶務を受け持つ。

選挙管理委員会の作業スケジュールの整理と引継ぎが必要であり、前選挙管理担当理事の荊木会員がまとめた資料を今会員、石神会員が整理中である。

7. 学会運営（出前講座など）（資料 13）

岡田会長より、出前講座のしくみについて提案があった。ホームページ上で申し込み、窓口担当者にメールが自動転送されるというもので、内容について引き続き検討を進めており、意見を募集中である。

出前講座に関連する測器講座について、手始めに「生物と気象」に講座記事特集として掲載する。測器講座の各候補の人選は終わっており、査読プロセスについては編集委員会で検討する。

学生会員の加入対策として、大会参加費を会員・非会員で大幅に差をつける等の案が出された。先の福島、名古屋大会での参加者の学生の割合を調査することとなった。

8. 学会賞の賞牌（資料 14）

岡田会長より、これまでに寄贈された賞牌の数や状態等について説明された。また、新

しい賞牌の作成方針についても議論を行った。賞牌の保管場所は当面松岡理事が引き受けることとなった。功績賞の記念品（[審議事項] 3. に関連）について、菅谷表彰担当理事に検討を依頼することとなった。

9. 「農業気象」の英文誌化と「生物と気象」の電子媒体化（資料 4）

[報告・連絡事項] 3. で議論したとおり。

出版方法変更に伴う広告料減の他、和文論文の電子化に伴う投稿料による収入の減分についても検討が必要であり、養賢堂と相談して見積もりをとり、財政面についての具体的なデータに基づいて次回理事会で再度議論決定することとした。「農業気象」に別冊として広告を差し込む案が出されたが、紙媒体の広告の継続について疑問を呈する意見も出された。

10. 編集委員会規程の改正（資料 15）

編集理事より、「農業気象」の英文誌化に向けた、特集号の編集等のための特別編集委員の設置の提案がなされた。特別編集委員を会員に限るかどうかについては引き続き議論する。特別編集委員は会長でなく編集委員長が委嘱する。英文誌化に伴い雑誌名を **Journal of Agricultural Meteorology**（農業気象）と変更する場合、会則の改正も必要であるため、次回理事会までに会則の修正案を作成する。

11. 編集委員の委嘱

九州支部選出の下町編集委員の逝去に伴い、新編集委員として丸山会員に委嘱する。

12. 会員名簿（資料 16）

現在氏名のみ掲載している会員名簿について、所属程度を載せてはどうかとの意見があり、大野理事が会員名簿と個人情報保護法との関係を調査した。その結果、個人情報を公開するにあたっては、個人情報保護法に触れないための相当の手順を踏む必要があることがわかり、今年の名簿発行は従来どおり、氏名のみとし、別冊扱いで個人会員以外には別冊をつけないこととした。会員異動情報の掲載の可否も含めて、会員名簿の扱いについて継続審議することとした。

13. 理事会経費の使い方（資料 17）

今年度より理事会経費が予算計上されたことを受け、その用途について議論した。理事会出席のための旅費および他学会間との連携業務に係る旅費に充てることとし、会計年度末 3 月にまとめて清算払いとする。平野理事が各理事の旅費支出の要望を元に積算し、今後の理事会開催予定を検討することとなった。

14. その他

1) CIGR 国際シンポジウム 2011 開催基金の協力依頼

CIGR 国際シンポジウム開催基金への一口 10 万円寄付の要請があり、学会として一口寄付することとした。

2) 総務理事の任期について

次回理事会に持ち越しとする。

3) 農学進歩賞の推薦 (資料 18)

農学進歩賞の公募が報告され、昨年度同様、学会としては推薦せずホームページでの周知にとどめ、何かあれば対応することとした。

4) 学会ホームページの内容の検討

岡田会長の提案により、現在の学会ホームページの内容の不備や改善すべき点について、理事会メンバー間でのメールなどで意見を出し、今後検討していくこととなった。

5) 日本学術会議の提言 (資料 19)

2010 年 4 月 5 日に日本学術会議から公表された日本の展望—学術からの提言 2010 報告「農学分野の展望」について、農業気象・環境工学関係で内容が偏っているとの指摘が学会員から寄せられ、対応策等について議論した。本報告の実際の用途や使用者が不明確だが学会として何らかの反論の必要がある、次回以降の予防策として学会がどうすべきかが重要である等の意見が出された。

6) 次回理事会

候補日 2010 年 9 月 1 日 (水) ~3 日 (金) のうち 9 月 1 日が有力。予算を考慮し、盛岡での開催も検討する。